

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700274		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームりらく藍		
所在地	北海道河西郡芽室町東芽室南2線16-12		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani-tr-ue&JigvosyoCd=0194700449-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的ケア(食事・排泄・入眠など)はもちろんの事、グループホームという家庭的で自由に生活できる点から、利用者が行いたいと声に出されたことは実施している。その事から芋団子作りや餅つきをおこなっている。外出行事は継続的に行うように取り組みをし、今年度は、景色の綺麗なヌツクガーデンや福原山荘へ外出し、季節感を存分に味わい楽しんだ。また、地域との交流も考え、芽室明治乳業工場への見学外出。昨年は、競馬場へホームから出向いたが今年度はホームへ来てもらい、馬車に乗る等継続的な交流が図れた。創作活動も、昨年同様にトイレットペーパーの芯や卵の殻の日用品を使用し、同じテーマにて職員・利用者共に作品作りを行なった。継続的に行なっている事で、利用者自身も、こだわりや個性が出るようになり、嫌がらず積極的に取り組めるようになっている。自分の作品をみて、楽しまれており、日常の中では利用者同士、作品を眺めながら会話が弾んでいる。昨年は、90代の入居者が多かったが、数名の退居により入居者も入れ替わりがあった。ホームでの日常的な生活を楽しまれている入居者が増え、活動的に過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町の郊外に位置し、日高山系が一望できるたおやかな農作地に立地している。同一敷地内には同じ母体法人である老人保健施設と1ユニットのグループホームが隣接しており、周囲は住宅もない田園風景であるが、車で5分程度の距離でスーパーや病院、行政機関等の中心部となっており、特段の不便さは感じられない環境下といえる。当事業所の優れている点は、機微に満ちた行動力がまず挙げられる。地域柄、町内会等の隣組的存在はないが、その希薄性を踏まえて、多種多様な方面に関係性を模索し実行している。具体的には、隣の市にある競馬場に利用者全員で作った記念品を贈呈し、代わりに競馬馬が施設を表敬訪問するといった事例や、ドライブも桜や紅葉等の季節の見物にとどまらず、乳製品やお菓子、ワインの工場まで射程しており、豊かな発想力と確かな実行力が利用者の楽しみを一段と高く支えている。またトイレットペーパーの芯や折り紙、卵の殻を使った創作活動も積極的に取り組んでおり、継続しているが故に利用者ひとり一人の個性が十分に引き出され、より愛着の満ちた作品となっており、利用者や家族に喜ばれている。利用者が楽しめることを職員と管理者が一体となって広げていく事業所の姿勢に、今後も大いに期待したい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりがその人らしく生活できるよう理念に基づき、支援するよう努めています。	理念は事業所内に貼り出されており、毎日のケアの軸として捉えている。ケアを楽しむ事が理念の実践となるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内にあるデイサービス・老健施設などの慰問に参加。春から秋にかけては外出や行事などにより地域と交流がはかれるように努めています。又、傾聴・ポイント・生花ボランティアによる定期的な訪問により馴染みの関係が出来ている。GH独自でフラダンスの慰問に来てもらっている。	肩を並べる住居がある地域ではないため、同一敷地内の施設と連携を密にし、各種ボランティアの行事を共有化するなど、また必要な町内に赴きサポーター養成講座を開催するなど、町全体を視野に入れて地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民へ管理者が講演に行ったり、町内からボランティアに来て頂けるなどホームで実践していることを外へ向けて案内している。また、地域住民・家族へ認知症サポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、取り組みや現状報告を行っている。会議の内容、結果は職員に周知し改善に向けての話し合いを行っている。議事録を付けて全ご家族へ送付している。また、ホームでの取り組みは月に1度の新聞に掲載しています。	運営推進会議は定期的に行われ、議事録をはじめとした関係書類は家族宅や関係機関に送付、あるいは開示し、意見や論議を公開しサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者と運営推進会議以外にも会議や電話等で話し合う機会を作り行政と常に連絡を取り合いサービスの質の向上に取り組んでいます。また、町の会議(ケアカフェ)にも定期的に参加し情報交換を連携が以前よりもとれるようになった。	福祉には熱意のある行政であり、各場面を通じて情報交換を行っており、福祉分野が気兼ねなく参加できるケアカフェが定期的に開催され、意見や人的な交流が密接になるなど、サービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員は充分理解しており、入居者の言動、行動も抑制しないよう声掛けにも注意するよう努めている。また、夜間は防犯のため施錠しているが日中は玄関を解放している。	虐待や抑制の本質的な理解を進め、同母体の老健の勉強会にて研修しているほか、独自の勉強会も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会へ参加し報告会を実施している。又、ホーム内で虐待に繋がりそうな職員の介護の仕方など常に見直しをし利用者の行動にも配慮し虐待防止に取り組んでいる。身体拘束12のマニュアル活用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者なく、必要としていないが、権利擁護などのマニュアルは設けており、必要時には活用できるようにしている。研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談や申し込みがあった時点でGHの概要やしくみ・料金などご説明しておりご家族の不安など解消し、よく理解された上で契約している。又料金や内容の改定があった際には必ず説明をして理解をされている。又1年に1回ご家族へ満足度調査アンケートを実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは常日頃意見を聞くよう努めている。また、ご家族へは面会時や家族交流会・手紙など出来るだけ意見など出しやすいような環境を作り聞いており、その意見に関しては反映できるよう努めている。	来所者家族から意見や苦情を聴取するほかに、年に一度アンケート調査を実施し、サービス向上に努めている。利用者の生活については月に一度、お便りとして家族宅に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議にて意見交換する場を設けている。また、毎朝、申し送り・カンファレンスの実施にて、随時、意見交換できる環境にある。提案があった際はよく話し合いし実践している。	月一度の会議の他、朝晩の申し送りや各ミーティングにて意見交換を行い、色々な提案やアイデアを聞き取り、ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は健康に影響が出ないよう配慮し、また講習会の参加や資格取得への試みを把握して向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修はもちろんの事、法人外研修にも積極的に参加できるよう努めている。また、勤務内で介助方法やアセスメントなど日々、指導と共に勉強することに努めている。また、ユニット内交換研修とグループホーム単独の勉強会を3か月に1回実施している。テーマは身近な内容から始めており、研修後は現場にて学習を生かす場面もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームの交流会の他、管内のグループホーム協議会の研修に参加するなど、職員が地域同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させている。又他のグループホームより施設見学など来られている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活の場でアセスメントを行なうよう努め、可能な限り面談回数を増やしている。現在やこれからの生活の不安を聞き、それを受け止め支援するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付より、現在に至るまでの経緯、現在の状況をお聞きし、不安・望むことを受け止め支援するよう努めている。また、入居後もその都度、相談し協力していきながら本人が安心して生活できるようにしていくことを常に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が求めている支援を相談時に見極める様努め、他のサービス利用の検討を含め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で一緒に食事準備などの家事や作業を行う事、また、同じものを同じ時間に共有することなどで、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問しやすい環境を作る事を心がけており、面会時には情報提供、又家族の思いなどをお聞きするよう努めることで、本人と一緒に支えていけるような関係作りを築くよう努めている。必要時の受診なども共有できるように一緒に行くなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達も訪問しやすい環境を作る事を心がけ、遠い方からの電話連絡や贈り物が届いた時など、お礼の一報を入れるなど支援している。また、お墓までの散歩もし関係がとぎれないようにしている。芽室町のじゃがバスに乗り町の中へ買い物へいく行事もおこなっている。	地域バス等の町の機能を十分に活用し、町の中や、人の触れ合える場所に出かけたり、隣接する墓地も馴染みの関係として散歩するなど、これまでの大切な関係を途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、制作などを一緒に行う事により、関係を深めていただけるよう努めている。それらを行うことにより、職員が近くにいないとも、お互い助けあうという姿勢が見られている。また、ユニット間交流にて合同で焼肉を実施し互いに交流されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、施設・病院などへ訪問するなどし、関係をすぐに断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしい生活が送れるように支援している。また、意思疎通の困難な方には、ご家族の協力を得ながら思いや意向を取り入れる様に努めている。日ごろ、職員は入居者と会話できる時間を作るよう業務の調整もしている。	生活を支えながら気づいた点を介護職員で話し合い、嫌な事や好きなことを共有し、できるだけ本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにてお聞きし、入居後も本人・ご家族にお伺いする機会を作り、馴染みの暮らしかたなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事に目を向けるよう努め、その日の状態に配慮し、一日を健康状態良好で楽しく、過ごせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回、モニタリングを実施し、日々の生活状況の見直しと個人の介護計画を評価する。その後、カンファレンスを行ない生きた介護計画書であるか話し合いをしている。日頃より気になった事柄についてはその都度アセスメント行うように努力し、本人・家族の意向にあった介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は定期的に見直しをしているが、気になる事項はその都度職員間で話し合い、より現実に沿ったプランになるように努めている。	介護計画の実現に向けて、日々検証していることをまず評価したい。今後は検証作業がより実体化できるように、介護日誌に短期目標を毎日評価する項目を設ける等、日々の介護が短期目標と一体化できるような、工夫に満ちた取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者ごとに生活記録があり、連絡ノートにも気づき等を記入し、申し送りも含め、職員間で情報を共有し実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のボランティアの慰問や行事に参加している。また他ユニットと合同で親睦会を行うなどし交流を深めるようにしている。傾聴ボランティアやポイントボランティアも定期的に来られ、視野の広い体制で取り組みが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアやご家族の協力により、お祭りへの参加をしている。また、町内のお店へじゃがバスを利用して出かけ、町内の方にもご協力して頂き、買い物や外食など楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの主治医があり、月2回の往診がある。入居時に家族の承諾を得た上で、かかりつけ医よりホームの主治医に情報提供して頂き、継続的な医療の提供を支援している。また、受診が難しい時には医師の協力のもと往診以外にも診察や訪看との協力により処置や医療面でのアドバイスもいただけている。それまでのかかりつけ医も継続して診察して頂くことは可能である。	かかりつけ医やホーム医等を選択しながら、よりよい医療関係で、健康面に配慮している。往診や訪問看護の協力もあり、また隣接する老人保健施設に常駐する医療従事者からは、即応態勢で相談できる体制でもあり、万難を排して臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看より支援やアドバイスなど、相談しながら日常の健康管理を行っている。また、介護職員から訪看へ訪看から主治医へ情報を伝え、主治医からの指示で点滴や検査（インフルエンザテスト）なども実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはソーシャルワーカーや看護師との連絡を密にとり、早期退院・心身機能の低下を防ぐよう情報を共有し、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の対象者はいないが、最期までホームで生活できるよう、主治医・家族と十分に都度話し合いをし方向性を共有している。また、入居時に事前指定をお聞きしている。重度化の際には早い段階より話し合いを設けている。訪看の協力もあるため、医療的な処置や支援なども可能である。	終末期の介護について看取りの指針を作成し、契約時に説明、同意を得ている。医療体制も整っており、本人や家族の希望があれば組織で対応できるように臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当など日常生活で発生した場合、訪看より都度全ての職員へ伝達・指導をしている。また、老健での講習会の参加。季節・行事毎には前もって再確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年に2回、避難訓練を実施。老健との協力が得られるよう体制が整っています。（その際の必要備品なども老健から借用できる訓練も一緒に行っている。）日々、自己点検票を用い確認をおこなっている。	年に2回、消防署指導による避難訓練を、同一敷地内の施設、建物で行っている。備蓄品も老健本体で確保しており、火災・水害・地震に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	名前の呼び方にしても画一的な決め方ではなく、一人ひとりの個性や人格を逸することのないように努め、日常生活の一コマにも誇りを傷つけないように徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちやペースを大切にし、希望をとり実践したり、選択できるような配慮を心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせて起床や就寝など規制がなく、本人の気持ちを尊重した支援をしている。またその日の要望で買い物や散歩・料理など希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関してはご本人の希望に合わせて実施して頂けている。日々の身だしなみも本人と相談しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付け等を共に行なうよう心がけ、好まない食事などに関しては代替など用意し提供しており、食事を楽しんで摂取できるよう支援している。また、誕生日には本人の希望の食事を提供し、外食や出前を行い、食事を楽しめるような工夫をしている。	食事は利用者と職員が一体となって食卓を囲み、食事が楽しくなるように努めている。献立はユニットごとに立案し、買い出しから盛り付けまで職員の手作りにて提供し、色々な場面で利用者の協力も得ながら、心のこもった食事になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に一日の摂取量を毎日カウントしておりバランス状況を確認している。全体面で把握できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を促し、就寝時には義歯を預かり消毒し、清潔を維持できるよう支援している。又、定期的に歯科往診に来ていただいて診察して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄が出来るよう、また失敗が少なくなるよう排泄チェックを毎日しており、その都度アセスメントを実施し自立に向けた支援を行なっている。	トイレでの排泄を基本としており、利用者個々人の排泄パターンを介護者全員で共有し、失敗の少ない排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも毎日行っており、便秘にならないよう食事内容や飲料水なども工夫し取り組んでいる。運動や乳製品を取り入れるなど便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に全員が入浴できるよう支援しており、ご本人の希望にあわせてなるべく入浴できるよう配慮している。	週に2回以上を目標にして入浴支援をしており、それ以外にも隣の老健の風呂は温泉であるため、老健の休みの日はみんなで温泉につかりお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせて休息して頂いている。また夜間は就寝時間を決めず、その人の習慣を尊重し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては全員が理解するよう努め、疾患や服薬状況・量・利用者の変化などもその都度確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせた役割を設けていることと楽しみなども提供できるよう日々努め、月1～2回ごとの行事も取り入れ支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場はできるだけ希望に沿って、お散歩に行くように支援している。また、5月～10月にかけてはホーム行事として外食を兼ね出かけています。地域とのつながりも大切に、明治乳業に見学に出向いたり、今年度は季節感を満喫する為、景色の良いヌップクガーデンや福原山荘に出かけるなどしている。冬場は外出が難しい為ご家族の協力のもと外出して頂くよう支援しています。	事業所の敷地は広く自然が豊かで、その周辺の散歩だけでも堪能できるが、折々のドライブも充実しており、四季の移ろいから乳酸品やお菓子、ワイン等の工場見学、競馬観戦、期間限定の庭園散策など機智に富んでおり、利用者の好奇心や向上心を満足させる結果となっている。高齢者だから、という前提に縛られない自由闊達で勇気のある支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のもと自己管理できる方は少額所持して頂いている。利用者の購入したい物などは代行をしたり、一緒に買い物をするなどしている。又、外食にてお小遣いを使用しており、利用者も理解されお金を使うことを喜ばれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話連絡をする際には、必ず本人へ変わり、ご家族と話せる機会を作っている。定期的にご家族・親族より電話連絡がきている。はがきなども時々くることあり。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場が不快にならないように充分配慮し季節に応じて、入居者と共に、創作物を作るなど、生活感・季節感を取り入れている。	居間の大きな窓からは十勝の田園風景が広がっており、季節感に満ちた利用者の作品群も多彩な色合いで共同空間を明るく飾りつけ、華やかさが落ち着いた雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、それぞれ寛げる場所がある。また、ソファや食堂テーブルの配置なども考慮して、設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参していただくよう説明し持参して頂いている。本人の意思を尊重し生活しやすい部屋作りをしている。	居室には使い慣れた家具や家族の写真等が飾られており、静かに過ごせる工夫がみられ、心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできること・わかることを生かして生活していけるよう支援をしている。また実施することで自立した喜びがあるため、支援するよう努めている。		